

(様式3)

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和4年度 福岡高等学校アクションプラン —1—			
重点項目	学習活動（教科指導の充実）		
重点課題	教科指導の充実・教育力の向上と自主的学習習慣の定着		
現 状	<ul style="list-style-type: none">・生徒の進路目標実現のため、また、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を実現するために、生徒の実態に即した教科指導の充実・教育力の向上が求められている。・生徒の学力の向上を図るためには、自主的学習習慣の定着が不可欠であり、その能力を伸ばす教育の推進が必要である。また、生徒の知的好奇心、学習意欲、探究心を引き出し、自分が何に興味・関心があるかの認識や将来に対する展望を持たせられるように、教員自らがICT活用や観点別成績評価の導入など教育環境の変化に対応しながら、率先して研修することが求められている。		
達成目標	<table border="0"><tr><td>①互見授業の参観回数 1人3回以上 外部研修会等の参加回数 1人2回以上 ※オンライン研修を含む</td><td>② 生徒の学習に対する満足度 自己評価シートの学年平均 2.9点以上/4点満点 (72.5%)</td></tr></table>	①互見授業の参観回数 1人3回以上 外部研修会等の参加回数 1人2回以上 ※オンライン研修を含む	② 生徒の学習に対する満足度 自己評価シートの学年平均 2.9点以上/4点満点 (72.5%)
①互見授業の参観回数 1人3回以上 外部研修会等の参加回数 1人2回以上 ※オンライン研修を含む	② 生徒の学習に対する満足度 自己評価シートの学年平均 2.9点以上/4点満点 (72.5%)		
方 策	<table border="0"><tr><td><ul style="list-style-type: none">・年間随時、互見授業を実施し、参観者の助言を踏まえて授業改善に努めるとともに、教科部会を開き教科全体で事後研修を行う。・外部の研修会や公開授業を随時案内するなど、参加を推奨する。参加者が研修内容を教科で共有し、指導法の改善に努める。</td><td><ul style="list-style-type: none">・授業や課題等、学習への取り組みについて、生徒の自己評価を実施する。・学習状況調査や自己評価集計をもとに個人面談を実施し、生徒の実態と学習意識を把握する。・学年を中心とし、生徒の実態に応じた課題の内容や量を調整し、生徒の自主的学習が定着するよう工夫する。</td></tr></table>	<ul style="list-style-type: none">・年間随時、互見授業を実施し、参観者の助言を踏まえて授業改善に努めるとともに、教科部会を開き教科全体で事後研修を行う。・外部の研修会や公開授業を随時案内するなど、参加を推奨する。参加者が研修内容を教科で共有し、指導法の改善に努める。	<ul style="list-style-type: none">・授業や課題等、学習への取り組みについて、生徒の自己評価を実施する。・学習状況調査や自己評価集計をもとに個人面談を実施し、生徒の実態と学習意識を把握する。・学年を中心とし、生徒の実態に応じた課題の内容や量を調整し、生徒の自主的学習が定着するよう工夫する。
<ul style="list-style-type: none">・年間随時、互見授業を実施し、参観者の助言を踏まえて授業改善に努めるとともに、教科部会を開き教科全体で事後研修を行う。・外部の研修会や公開授業を随時案内するなど、参加を推奨する。参加者が研修内容を教科で共有し、指導法の改善に努める。	<ul style="list-style-type: none">・授業や課題等、学習への取り組みについて、生徒の自己評価を実施する。・学習状況調査や自己評価集計をもとに個人面談を実施し、生徒の実態と学習意識を把握する。・学年を中心とし、生徒の実態に応じた課題の内容や量を調整し、生徒の自主的学習が定着するよう工夫する。		

令和4年度 福岡高等学校アクションプラン —2—	
重点項目	学校生活（生活指導の充実と健康な心身の育成）
重点課題	基本的な生活習慣の確立と学校生活への適応
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・素直でおとなしい生徒が多く、平素からの挨拶が不得手な生徒が見られる。 ・自分の気持ちを表現することが苦手な生徒が見られる。 ・思春期における心の問題を抱えている生徒がいる。 ・コロナ禍の現状において、感染症対策の実践の徹底が必要である。
達成目標	① さわやかに挨拶しようと心がけた生徒の割合 90%以上 ② 心の相談日や教育相談の実施 年間15回前後 ③ ほぼ全員が、健康観察、手洗い、消毒など、感染症対策を実施
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・自治委員による働きかけ ・定期的（月1回）な挨拶・服装指導やさわやか運動などでの働きかけ ・教職員側からのさわやかな挨拶 ・学年や保健厚生部との連携を図り、生徒の悩みや問題行動について早期発見と迅速な対応に協力して取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・カウンセラーによるカウンセリングの必要な生徒を把握し、実施後には関係者と協議をする。カウンセラーや医師による講演会を実施する。 ・手洗い、消毒等による感染症対策の意識調査を実施する。また、調査を通して、生徒の意識を高める。

令和4年度 福岡高等学校アクションプラン —3—	
重点項目	進路支援（進路目標の設定とその実現）
重点課題	進路意識の高揚と、納得のいく進路選択の実現
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の能力・適性に対する認識が十分でないため、将来の自分のあり方に対して、主体的に考えることができない生徒がいる。 ・学期や学年の進行とともに進路意識を高められる指導と、3年生には受験に向けた適切な支援を行う必要がある。
達成目標	① 進路講話などによる進路意識の向上 校内での進路講話等 各学年年間2回以上 ② 受験への取り組みに対する満足度 （卒業時：3年生対象） 満足：60%以上 不満：10%未満
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生に対し『職業人が語る会』を実施し、自己の将来について主体的に考える姿勢を伸長させる。 ・2・3年生に対し、大学生による進路ガイダンスや外部講師による進路講話により、具体的な進路目標を持たせ、主体的に学習する態度を育てる。 ・3月に、卒業した3年生が2年生に講話を行うことで、具体的な進路意識と学習意欲を高める。 <ul style="list-style-type: none"> ・面接を通して生徒の進路希望を十分に把握し、受験校の選定や学習に対する助言・支援を行う。 ・入試動向や校内テスト・外部模試の分析結果を、学年会や進路検討会等で情報を共有し、面接や教科指導等に生かす。 ・教科や小論文の添削、面接指導等の個別指導を、全校体制で計画的に実施する。

令和4年度 福岡高等学校アクションプラン —4—

重点項目	特別活動（ボランティアと図書）	
重点課題	ボランティア活動の実践 委員会活動の活性化と生徒の読書習慣の定着	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア委員会や部活動を中心とした地域施設への訪問・交流等は困難であるので、コロナ対策を講じて行える活動を考える必要がある。 ・多くの生徒が図書館を学習の場として活用している。また、学年との連携による学級文庫の設置やF Tでの読書時間の導入などで、貸し出し数は順調に伸びている。 ・委員会活動は、生徒が主体的に動くために、委員会活動の時間確保を図った結果、充実した試み（図書館だよりの内容刷新、コロナ禍における館内展示の工夫など）を実施することが出来た。 	
達成目標	① ・コロナ対策を講じて実施したボランティア活動の回数 5回以上 ・“ボランティア活動に参加してよかった”割合 80%以上	② 生徒の主体的な委員会活動による生徒の読書量（全校生徒の年間貸出総数）の向上 ＊参考R3総貸出数868冊
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア委員会を中心に、地域施設訪問に代わる新たな活動を考え、コロナ禍でもできることを実施する。 ・全校生徒からの参加を募り、参加後の意識調査を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員会での話し合いをより充実させ、コロナで実施できなかった委員会活動を再開するための準備を計画的に進めるとともに、生徒が読書に親しむ機会を設ける。 ・図書部内での話し合いと連携をより綿密に行い業務内容の改善に努める。

令和4年度 福岡高等学校アクションプラン —5—

重点項目	その他（実践的英語力の向上と国際理解教育の充実）	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・CAN-DO リストを有効に活用し、英語の4技能をバランス良く伸ばす。 ・語学研修等を通じて英語実践力を高め、国際的な視野を持った人間を育成する。 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・4技能の素地は身につけてきているが、自分の考えを自由に表現できるレベルになるまでには、継続した指導が必要である。 ・英国語学研修に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響で直近3年間は実施できていないが、代替研修としてニュージーランドとのオンライン海外研修や、British Hills のオンライン研修を実施した。 ・英語コースにおいては、スピーチコンテストや英語セミナー、英語講演会を実施することで、自分の意見を積極的に英語で表現したり、異文化交流や異文化理解を図ったりする機会を多く設けている。 	
達成目標	① 実用英語技能検定の取得率	2年終了時まで 準2級以上 80% 英語コース3年終了時まで 2級以上 90%
	② GTEC の得点 （コミュニケーション能力テスト）	1年 690点以上 80% 2年英語コース 810点以上 80% 3年英語コース 900点以上 70%
	③英国語学研修（実施できない場合は代替研修）参加生徒の充実度 研修全体を通して“とても良かった”割合	80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・CAN-DO リストに基づき、それぞれの学習活動の意義を理解した上で活動させる。その成果を客観的な指標で測るため、積極的に検定を受けさせる。 ・英国語学研修が実施できない場合は、代替研修を企画し対応する。 ・研修の事前、事後の指導やアンケートを実施し、単発のイベントで終わらせず、更なる学習の動機付けとなるようにする。 	